

CEATEC2021 に期待する ～つながる社会、共創する未来～

為ヶ谷秀一

1：CEATEC 2021 の開催概要の発表

一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA：代表理事/会長 石塚 茂樹 ソニー株式会社 代表執行役 副会長）は、今年の「CEATEC 2021（シーテック 2021）」を幕張メッセ（千葉県美浜区）およびオンラインにて開催する、と3月17日に発表しました。

今年は、10月19日（火）～22日（金）の4日間にわたり、幕張メッセとオンラインの両会場をハイブリッドに連携した形で開催される。

開催テーマは「つながる社会、共創する未来（英語表記：Connecting Society, Co-Creating the Future）」、スローガンは「ニューノーマル社会と共に歩む CEATEC（英語表記：Cyber Physical Exhibition with/after COVID-19）」となっており、CEATEC 2021 はコロナ禍でのコンベンションの新しい形に挑戦するとしている。

<https://www.youtube.com/watch?v=BqwyRhjo1pw>

（3月17日：CEATEC 2021 開催概要説明会）

以下に、発表された開催概要を抜粋して紹介する。

スローガン：

「サイバーとフィジカルを統合させた「共創を実現するための場」の実現を目指す」

会期：10月19日（火）～22日（金）

会場：幕張メッセ / オンライン

【出展募集】 申込受付：3月24日（水）～優先申込期限：5月31日（月）

概要発表会において、CEATEC のエグゼクティブプロデューサーを務める鹿野清氏



写真1 開催概要を説明する CEATEC・エグゼクティブプロデューサー鹿野清氏

が、「CEATEC 2021」の全体概要を説明する共に、次の様なコメントを発表している。

「完全オンライン開催となった CEATEC 2020 ONLINE は場所にとらわれず、好きな時間に来場できるということで一定の評価をいただいた一方、出展者からも来場者からも、やはり会場で実物に触れてみたい、会場の熱気を感じたいといった声を多数いただく結果となりました。主催者としてこれらの期待に応えたいと考えています。

リアルとオンラインをベストミックスで組み合わせた開催はまだ答えのない状況ですが、目指すのは単なるハイブリッドの開催ではなく、デジタルツインともいえるべき、リアルとオンラインをシームレスに接続することで実現する、CEATEC 体験の“拡張”です。出展者の皆様とともに、新たな CEATEC の形を作るべく、チャレンジしてまいります」。

「開催概要の紹介」

最初に、20周年を迎えた「CEATEC 2019の振り返り」として、一昨年のリアルな開催に対する総括がなされた。

CEATEC の開催が、「未来社会への実態に繋げる、業種を超えた「共創の場」に進展し、「構造変革により共創を求める層や次世代を担う層が集う場へと変化」したと総括されている。

更に、昨年の「CEATEC 2020 ONLINE」についても、「ニューノーマル社会と共に歩む CEATEC」とのスローガンのもとで、デジタルトランスフォーメーションが進められたと振り返られている。

これらの評価の上に、CEATEC 2021 では、オンラインと幕張メッセにおけるリアル会場との連携による新たなコンセプトが紹介された。

CEATEC 2021 の開催スケジュールに関する今年の特徴は、幕張メッセにおけるメインイベントを中心に、前後の期間に

「Society5.0/ Digital Transformation」をテーマとしたオンラインによるイベントが設定されていることである。

- ・プライベート(5月下旬から 10月18日)
- ・メインイベント(10月19日から10月22日)
- ・アフターイベント(10月23日から11月30日(予定))

コンファレンスは、オンラインで開催され、出展社のオンラインでの展示ブースと、幕張メッセの展示会場とは、シームレスに連携できるシステムを提供することを目指している。

この他、新型コロナウイルス感染防止対策に向けた展示会場でのブース設営や、来場者への対応策など、詳細は別途公式ホームページに掲載されている。
<https://www.ceatec.com/ja/application/>



2：世界の主要なコンベンションの状況

新型コロナウイルス (COVID-19) 感染症の世界中への拡がりに、WHO (世界保健機関：World Health Organization) が、パンデミック (Pandemic：世界的大流行) を宣言してから1年を越えたが、一向に収束に向かう気配が見えない。そのことにより、例年米国・ラスベガスで開催されるCESやNAB Showを始め、ヨーロッパで開催されるIBCなど、放送機器やコンテンツ関連の殆どのコンベンションのリアルな開催については中止または延期されている。

この1年、これらの状況に対してインターネットによるオンライン (ヴァーチャル)・コンベンションによる新しい形での展示会やコンファレンスが開催されてきている。そこでは、多くのオンラインシステムの開発や、運営のノウハウの蓄積がなされて来ている。オンラインでのメリットを活かすとともに、リアルでの展示会を目指したハイブリッドのコンベンションの開催に向けた取り組みが、それぞれの主催者によって進められてきている。

CEATEC 2021 コンセプト

オンラインとリアルの統合

「コロナ後も見据えたCyber (オンライン会場) とPhysical (幕張メッセ会場) のそれぞれの優位性をシームレスに統合する革新的展示会」
 Cyber Physical Exhibition with/after COVID-19

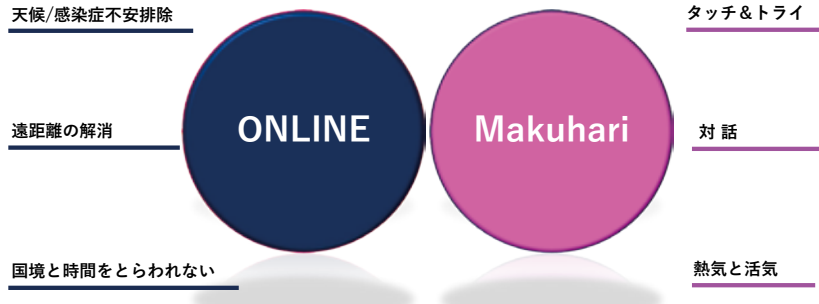
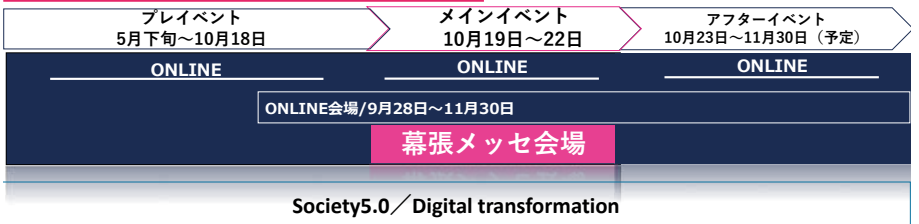


図1 CEATEC2021 コンセプト

CEATEC 2021 開催スケジュール

CEATEC コンファレンステーマ



- カーボンニュートラル (グリーン×デジタル)
- 5G
- モビリティ (コネクテッドカー/エアモビリティ)
- スーパーシティ/スマートシティ
- カーボンニュートラル (グリーン×デジタル)
- 5G
- モビリティ (コネクテッドカー/エアモビリティ)
- スーパーシティ/スマートシティ
- モビリティ
- CEATEC AWARD 2021

図2 CEATEC 2021 開催スケジュール

3-1.会場 エリア構成



図3 オンラインと幕張メッセ会場との連携



©CES2022

● CES

CTA (Consumer Technology Association) により開催されるCES2021は、1月11日から14日に亘り、インターネットによるオンラインで、完全デジタルの形で開催された。2022年開催予定のCES2022は、2022年1月5日から8日に亘って、リアルな展示会とヴァーチャルのオンライン・コンベンションの利点を組み合わせて、米国ラスベガスで開催すると予告している。



<https://www.ces.tech/>

● NAB

2021年5月13日、14日に開催されたNAB Show 2020のオンラインイベントは、「NAB Show Express」としてヴァーチャルに開催された。

「NAB Show Express」は、5月13日の開始までに、既に世界中から約4万人が登録をしたと報告されている（昨年のNAB Show 2019の参加者は、約90,000人）。また、出展企業の数も1,479社となっており、2019年のNAB Showの出展社数（約1,600社）から見ても、何れも数字の上では従来と同じ規模でのオンライン開催になっていた。アーカイブされたセッションは、120日間オンデマンドで視聴できる様になっていた。



©NAB Show 2021

この成果は、2021年のNAB Show 2021で活かされ、ハイブリッドのコンベンションとして開催される予定であるが、開催時期は従来の4月から遅れて2021年10月9日より13日に亘り、ラスベガスで開催される予定である。



<https://nabshow.com/2021/>

● IBC

毎年9月にオランダのアムステルダムで開催される欧州最大の放送メディア技術展であるIBC 2020 (International Broadcasting Convention) も、2020



©IBC 2021

年9月8日から11日までオンラインで開催された。IBCの公式WEBサイトである「IBC365」を活用して、インターネットによる4日間の「IBC Showcase」とし、「Empowering Content Everywhere」をテーマにオンラインで開催された。IBCは、例年150カ国以上、56,000人を超える参加者がいるコンファレンスと展示会である。

今年のオンラインによるバーチャル・コンベンション：IBC Showcaseには、1,000を超える出展者と、20,000人の参加者の登録があり、大きな成果を挙げたと評価されている。IBC 2021は、2021

年9月10日から13日の4日間、例年と同じオランダのアムステルダムで開催される予定である。

<https://show.ibc.org/>



● CEATEC

2020年10月20日（火）より4日間、オンラインにて開催された「CEATEC 2020 ONLINE」は、会期中の登録来場者数が96,625名だったと発表された。オンライン開催により複数日にわたって入場した来場者が多かったことから、会期中の延べ来場者数は15万名を超えたと発表されている。会期終了後も12月31日（木）まで各出展者のブースがオンライン上で展示が継続されていたので、更に多くの参加者があったと言える。

また、会期中に実施されたコンファレンスの聴講数は120,847名（延べ人数）で、昨年の聴講者数28,228名（延べ人数）を大きく上回る結果となった。幕張メッセ（最大定員1,000名）の会場では実現できなかった、1セッションで4,000名を超える聴講者があったセッションもあり、オンラインならではのメリットを最大限生かすことが出来たと評価されている。キーノートをはじめとする各セッションのアーカイブは、オンデマンドにより12月31日（木）まで公開されていた。



©InterBEE 2021

● Inter BEE

2020年11月18日（水）から20日（金）までの3日間をライブイベント期間とし、初めて全てオンラインで開催されたInter BEE 2020は、インターネットのWEBサイト「Inter BEE 2020 ONLINE」が活用された。ライブイベント期間：2020年11月18日（水）～20日（金）、オープン期間：2020年11月18日（水）～2021年2月26日（金）の開催期間が終了して、登録来場者数が21,056名（うち国内：20,748名、海外：310名）だったと発表された。

「Inter BEE 2021」の開催については、後日改めて発表される。

www.inter-bee.com



3：新しい形での「CEATEC 2021」に期待する

コロナ禍での展示会やコンファレンスの開催は、リアルな会場とヴァーチャルなオンラインによる会場とのハイブリッドで開催される形が、多くのコンベンションや展示会では主要な形式になって来ている。この変化は、一部においては永続的に続けられて行く形式になるものと考えられる。そ

の事により、従来の方式では参加できなかった人々に、新しい門戸を開くことにもなる。ダイバシティへの配慮が進む中で、会場に来場できない多くの人々にも有意な成果をもたらすコンベンションになって行く事が期待できる。

一方では、今後のコロナ禍の状況によっては、計画されているイベントの全てが変更される可能性もあり、これらの状況の変化に対応した柔軟な運営が、主催者には求められるものと言える。

CEATEC 2021での新しい取り組みにおける成果が、その後続くInterBEE 2021において活かされ、これからの産業界や社会に対しての貢献が継続されて行く事を期待する。

（資料提供）

一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）

一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会（JESA）

Hideichi Tamegaya